

2017年2月 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会（第456回）

さんぽかい

「大和郡山 ひな人形と金魚めぐり（奈良）」

2月26日（日）穏やかな春風の中、まさに「燦歩日和」です。
参加は男性16名、女性11名。その内男性1名は、「お試し燦歩」です。

大和郡山は江戸時代、柳沢氏15万石の城下町。
その頃の、家数は3千6百軒、人口は1万3千人と大層繁華な町でした。
繁栄の跡が今もそこに残されていて、町内では丁度前日から「大和な雛まつり」という催しが行われていました。

最初に訪ねたのは両替商だった葉本家。明治時代初期の店舗・住宅の姿が良く残っています。
軒下の虫籠窓（むしこまど）には金融業のシンボルの分銅が描かれています。
（現代の地図でも銀行のマークは分銅ですね。）



こちらの雛人形は、御殿が付いて、明治の初め頃のものという事でした。

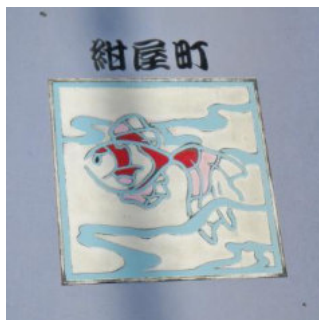


お雛様は町内130軒余のお店・住宅で展示されていて、ついつい歩みを止めてしまいます。
格子越しに見るのも何か懐かしい感じがします。
「(^.^♪ わたしの城下町」の雰囲気ですね。

酒屋さんに伝わるこの内裏雛は、江戸時代享保頃のものとか。



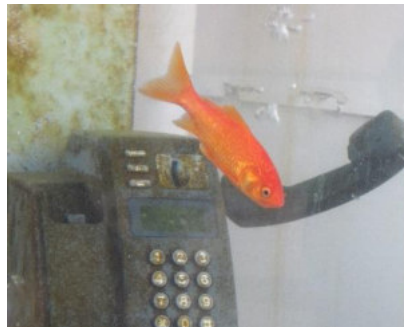
大和郡山では江戸時代、下級武士が内職として金魚の飼育を始め、その技術が近隣の農家に伝えられて、産業として盛んになりました。町内はまた金魚尽くしで、毎年夏には「全国金魚すくい選手権」が行われているほどです。



道案内も金魚。



金魚の泳ぐ電話ボックス。勿論通話は出来ません。



昼食後、お城に入ります。戦国時代に筒井順慶が築き、豊臣秀吉の弟秀長の時代には、大和、紀伊、和泉100万石を治める拠点でした。城には5層6階の天守があったと考えられています。今天守台は修復工事が進められていて、この日は上れませんでした。（3月下旬、お城まつりの頃には、上れるそうです）



午後1時半、近鉄郡山駅で解散。

オプションで、一面の養殖池の間を歩いて金魚資料館に回りました。



養殖をする傍ら、資料館では、金魚の浮世絵から古文書、おもちゃまで展示され、歴史の一端に触れることが出来ました。

養殖池には、早春の光が溢れていました。



いつもながらの蛇足で失礼します。

蛇足1 逆さ地蔵

天守台に近付けなかったのも、手持ちのアーカイブの中から1点。戦国時代に急遽築かれた城では、建築資材に何でも利用されました。この郡山城で有名なのは石垣に使われたお地蔵さま。調査では大永3（1523）年7月18日と刻まれているとか。写真の下端がお顔で、気の毒に500年程も逆立ちしたままです。



蛇足2 菜の花の……

芭蕉の弟子で彦根藩士だった森川許六の句に「菜の花の 中に城あり郡山」とあります。

名句には及ぶべくもありませんが、帰途に菜の花を見かけたので。のどかな郡山の春の情景です。



* * * * *

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

2017年度の予定

- 4月 シャクナゲの室生、大野（奈良）
- 5月 渡船も楽し、此花トレイル（大阪）
- 6月 膳所めぐり 歴史旅（滋賀）
- 7月 石の宝殿と鶴林寺（青春18切符利用 兵庫）
- 8月 暑さを避けて休会
- 9月 コスモスの斑鳩三塔（奈良）
- 10月 吉備路の旅（1泊）
- 11月 京都一周トレイル（9回の第1回）
- 12月 納会
 - 1月 道明寺天満宮で初詣（大阪）
 - 2月 どんづる峰を訪ねる（大阪・奈良）
 - 3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743 - 20 - 4159）
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。（生島幸弥）